

令和 3 年度第 4 回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和 4 年 2 月 24 日（木）14：00～16：30

場 所：Web（Zoom）会議のため、各施設にて

出席者：10 名

仲宗根るみ（北部地区医師会病院）、傳道聡子（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、金城美奈子（県立宮古病院）、眞喜志好枝（県立八重山病院）、島袋百代（パンキャンジャパン沖縄アフェリエイト）、中山富美（地域統括支援センター）、小波津真紀子（沖縄県保健医療部）、増田昌人（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学病院）、

欠席者：1 名 樋口美智子（沖縄国際大学）

陪席者：2 名 有賀拓郎（琉球大学病院）、石川千穂（琉球大学病院事務）

【報告事項】

1. 令和 3 年度第 3 回情報提供・相談支援部会議事要旨（令和 3 年 1 0 月 1 4 日）

資料 1 に基づき、傳道委員より、令和 3 年度第 3 回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

2. がん患者ゆんたく会（10～12 月）

中部病院からは 1 0 月に、1 年 9 カ月ぶりに、2 時間から 1 時間に時間短縮し、フリートークのゆんたく会が参加された。参加者の中には、ゆんたく会に参加しようとしていたところにちょうどコロナがはじまった為、自身で情報を集めながら、会への参加を待ち望んでいた方もいらした。那覇市立病院からは、ゆんたく会は開催されなかったが、地域統括のゆんたく会に参加し運営等を見学している。また次年度開催に向けて、準備をしているところとの報告だった。琉大病院では、1 月までの報告が提出された。コロナの間の感染対策や運動等の日常生活に関する事、ワクチンに関する事、コロナ禍ならではの情報交換等があった。田崎病院長の島袋盛洋先生による、『がん患者さんの気持ちのつらさ』をテーマとした講演や、パンキャンジャパン沖縄支部から『体験談スピーチ』が行われた。1 月に関しては、参加者少数の為、3 0 分で閉会とした。パンキャンジャパン沖縄支部からは、1 0 月 3 0 日に南風原にある「環境の杜 ふれあい」にて、ハイブリットで交流会を開催した。埼玉から 1 名、県内会場参加者は 5 名だった。診断されたばかりの方が 3 名、毎回参加される方が 3 名で、抗がん剤副作用についてや不安に関する心のサポートについての交流があった。セカンドオピニオンに関する質問があったが、医師も参加していたので、相談内容に対して対応があり、良い会となった。3 月にもサロン開催の予定。

3.がん相談件数（10～12月）

○北部地区医師会病院

がん認定看護師がコロナ病棟から戻ったこともあり、件数は前回報告分よりも増加した。内容としては抗がん剤治療の効果は乏しいが治療という目的で通院することが生きがいであるという患者さん、治療にかけるお金を家族に残したい患者さん、ターミナルだとしても外出したい患者さんの支援等、稀な内容や本人の要望について相談を受けることが多かった。また、がん患者さんの自死のケースも経験したので、今後、病棟や外来での情報共有や連携を強化していく。家庭支援課や児童相談所が介入しているシングルマザーの患者さんのケースも数件あったが、行政と院内との連携が難渋し、今後の反省点となった。

○県立中部病院

セカンドオピニオンや重粒子線、温熱療法等、院内だけでない県外施設へつなぐケースが多かった。コロナの影響のため、患者さんの状況が分からないという家族の方から、相談支援センターへ電話がかかってきて主治医と連携するというパターンも多々あった。

○那覇市立病院

院内相談がほとんどだった。利用回数2回以上のリピーターが多く、院内関係者からの紹介も多いので、相談窓口の周知は少しずつ院内に広まっている印象だった。内容としては、症状や副作用、後遺症、食事、扶養、介護、ホスピス、在宅医療の相談等が上位を占めている。ホスピスの面会制限が続いていることもあり、直前まで悩んで在宅に行きたいと決断されるケースが多かった。また、情報や繋がりをもとめ、患者サロンの再開を望むような声もあった。

○県立宮古病院

どの月も症状や副作用、不安、精神的苦痛の相談が多かった。面会制限の中、家族の意思決定支援に関わることで、面会承認の可否について、担当医によって判断基準が異なるところが難しい。訪問診療の先生やヘルパーの方が濃厚接触になってしまい、会議を急遽リモートに切り替える対応もあった。

○県立八重山病院

在宅療養に関する相談、石垣で対応できない治療を他の病院への紹介・案内する対応や、キーパーソンがいないために不安や辛さを相談できる相手がいらない方の話を聞く機会が多かった。相談員が外来を回り、一度相談に来た方に困っていることはないか直接聞きに行ったりして介入するケースも多かった。それにより、急に他院に入院になった場合も電話を頂くこともあり、地道な声掛けにより関係性が構築されていっているように感じているとのことだった。

○琉球大学病院

病棟が稼働してきた影響もあるのか、相談件数自体は前回よりも減っていた。療養場所調整は、定期的に5件以上は対応しており、前年度は計82例だったが、今年度はこれま

でに84件なので、在宅調整は増えている。また、遠方から通われている方で、治療継続難しく、通院が負担になっているケースで入院療養希望された場合、どこに繋がたらよいか戸惑うところがあるので、情報交換できればとのことだった。仲宗根(るみ)委員より、告知状況や予後等をしっかり共有して繋げて頂ければ、連携課や緩和ケアチームの院内連携は取れているので、遠慮なく紹介していただければとの声掛けがあった。

その他、就労支援の取り組み状況に重点を置いた情報交換も行われた。

○琉球大学病院

出張相談はコロナの影響のため定期開催ではなく予約があった際に感染対策に気を付けた上で面談を行っており、オンライン開催も1例あった。造血幹細胞移植後の患者さんの就労支援情報提供も行っており、移植後～退院の目途が立つ頃～退院後のように、時期を見て面談し、両立支援の共通シートの運用に至った例もあった。

○那覇市立病院

定期出張相談が停止になっており、再開時期と周知について悩んでいるところである。ハローワーク等との連携はスムーズだが、患者さんが実際には入ってきていない状況があるようだった。

○中部病院

ペースメーカーを入れた方や長期入院で悩んでいる方に就労支援で関わることがあった。主治医と相談し、アクリル板などで感染対策し、社労士やハローワークの方が病棟で面談したケースや、面談を予約していたが、オミクロン増加の影響で、社労士が電話で相談を受けたケースがあった。

○北部地区医師会

もともと就労支援に関する相談は少ないが、コロナの影響で出勤日数、給料が減ったという相談が多かった。

○県立八重山病院

両立支援ポスターを掲示はしているが、相談支援センターに直接相談の声がかかることが少なく、患者さんにお仕事について状況を伺う中で、必要な時に情報提供をしている。その場合も、患者さんと職場の間で調整可能そうだとされるケースが殆どで、それ以上の介入にはつながっていない。また、体調不良をきっかけに、受診時にはすでにお仕事を辞めてしまって現在治療中の患者さんたちに、就労支援の案内ができるタイミングをみているとのことだった。

○県立宮古病院

ポスター掲示はしているが、自営業が多く自分たちで解決しているケースが多く、会社勤めの方に傷病手当金の情報提供をするに留まっており、昨年4月依頼、社労士に実際繋がったケースはないとの報告だった。

4. がん相談件数集計（令和2年度及び3年度）

資料4(別紙)の通り、6拠点別、相談件数集計の統計表に基づき報告があった。相談形式(方法)や、受診状況、相談者カテゴリー、治療状況等、各グラフからは、病院ごとの特色が見て取れ、同時に今後の課題も見えてくる。利用時間については、どの施設でも30分未満が多かった。今後も各施設で相談件数データをまとめて、別紙のようにまとめ、比較等に使えるようにしていく。

5. がん相談支援センターの広報

資料5に基づき、がん相談支援センターの広報に関する報告があった。計10回の依頼中、6回掲載された。引き続き広報依頼を行う。

6. 地域統括相談支援センター活動報告

資料6に基づき、中山委員から昨年10月～12月の活動報告があった。3カ月の相談件数トータルは29件、コロナの影響を受ける前と比べて全体的に3分の1以下程度に相談件数は減り、対面での相談ができなくなっている。コロナが落ち着いた時期に病棟に上られるようにもなったが、再びのコロナ増加に伴い、電話相談や相談室での相談に切り替えた。入院中、面会制限があり、家族と話ができず、さみしさを病棟まできてもらえないかという相談もあり、コミュニケーションが減った影響で、不安が増している印象を受けた。琉大ゆんたく会が再開しピアサポーターも、毎月参加した。統括でのオンラインサロンも開催されているが、曜日や時間を固定したほうが参加者も参加しやすいのではということで、第4回目からは第3火曜日の14:45分からと固定化されることとなった。少しずつ参加者は増えてきている。オンライン開催が初めてということで試行錯誤もあったが、半年過ぎ、なんとか形になってきている印象。また、地域統括相談支援センター誕生10周年を記念し、FM21株式会社から特別番組を放送して頂いた。誕生の経緯や現在の活動などが紹介された。CM放送もしてもらい、広報後、問合せが多少増えた印象だったが、相談件数としては減っている状況なので相談員の質の向上も試みながら、今後も啓発活動について検討していきたい。前回の部会での報告から引き続き、ピアサポート展開催についての紙面報告もあった。

7. 第2回及び第3回がん相談員実務者研修会

中部病院で第2回の実務者研修会が、「がん治療に伴う不安をもつ相談者に寄り添う相談員を目指して」をテーマに、10月9日にオンライン開催された。ポストアンケートとプレアンケートの結果からケアに関する困難感は改善し、アセスメントは自信がついたことがわかった。12月11日には、第3回研修会が、「意思決定支援のプロセスを読み解く～認知症や精神疾患を持つ患者さんに対して～」をテーマに那覇市立病院で開催された。事前にアンケートで講師への質問を募り、それに対してディスカッ

ションを行った。パソコン操作や環境の問題で、プレテスト受講に影響があった受講者もいたが、感想としては、概ね満足度が高かったとのことだった。

8. 第17回都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会(令和2年11月26日)

資料8に基づき、増田委員より報告があった。拠点病院の指定要件について、がん相談、ピアサポート、患者サロンのオンライン対応は必須項目になるので、対応できるよう部会でも審議が必要だろうとの発言があった。大久保委員より、大阪府の「がん相談支援センター利用にあたってのアンケート」についての補足と、相談員研修の件で情報共有もあった。2022年度の基礎研修は2月から申し込み開始となり、基礎研修3(オンライン開催)については4月上旬からの申し込み開始となる。指導者研修については3病院から合同参加となるので、一緒に参加することを検討頂ければとのことだった。

9. 九州沖縄ブロック 地域相談支援フォーラム(令和3年2月12日)

資料9に基づき、報告があった。相互評価PDCAはどのように行われたかという質問があり、1病院に他施設が訪問して行われたと回答した。がんサポートハンドブックが毎年更新されるのも、数少ない県であるようだった。

10. 拠点病院指定要件の改訂について

増田委員より、指定要件の改訂が行われていることが報告された。改訂について大きな流れ3つは以下となる。

①拠点病院の役割・在り方について、都道府県拠点病院はその県に責任を持ち、地域拠点病院はカバーしている医療圏のがん医療全般について責任を持つということを明記する。それに伴い、県全体や2次医療圏ごとの5年生存率等、いくつかの指標について県の指標を意識して運営する。

②外科治療・放射線・薬物療法の部分の規定を緩和する代わりに現況調査等についての指標を入れていくことになる。(5年生存率やQI、患者体験調査等)

③情報提供・相談支援分野では、がん相談やピアサポート、患者サロンなどに対してWEB対応が義務付けられる。

他に、県拠点と高度型地域拠点においては、がん相談員は3名、地域拠点は、2.5名、診療病院は2名にするよう、要望書を提出したとの報告があった。

【協議事項】

1. 相互訪問評価の次回開催について

当初、実務者研修会と重ならない月で実施していく予定だったが、コロナの影響でずれ込んでいる。今年度は院内の状況共有に留め、開催方法も含め、次年度に改めて

検討するという案が提案され承認された。

2. 令和4年度部会計画

別紙の通り、令和4年度の活動計画が提案され承認された。島袋委員より、ピアサポーター養成講座受講の条件に、2年間状態が安定していること、という条件がある。すい臓がん患者さんの中でも研修を受講したい方がいるが、このがん種は2年間安定している方が少ないので、条件を緩和することは難しいか確認があった。条件確認をして次回以降情報共有するとのことだった。

3. 部会委員構成について(案)

資料11の通り、拠点病院以外からの参加について提案があった。友愛医療センターの上原さんは立候補があったとの報告だった。資料には、ピアナースとあるが、相談員の立場から委員就任して頂く。南部医療センター・こども医療センターからは小児科関連について情報交換できればということで追加が提案され、承認された。

4. その他

次回開催は5月19日(木)、14時から開催。